

特別支援教育コーディネーターのお仕事 年間計画表

園  
学校

主な項目	1 学校内の関係者や 関係機関との 連絡調整	2 各学級担任への支援	3 巡回相談員や専門家 チームとの連携	4 学校内の児童等の 実態把握と 情報収集の推進	5 その他、特別支援 教育に関わる内容
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					
3月					



## 特別支援教育コーディネーターのお仕事 チェックリスト

※この1年を振り返って、来年度の見通しをもちましよう。

(実施した項目に○印を付けてください)

主な項目	取組の例	時 期(月)											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 学校内の関係者や関係機関との連絡調整	校内委員会の開催	○					○			○		○	
	ケース会議の実施		○					○					
	保護者に対する相談窓口												○
		校内委員会の実施      ケース会議の実施 個別の教育支援計画の作成 個別の指導計画の作成 外部の関係機関との連絡調整 保護者に対する相談窓口      就学に関する相談窓口 時間割の作成      等											
2 各学級担任への支援	担任からの相談	○	○		○		○	○	○			○	○
	教材・情報提供	○	○					○	○		○	○	
	進級時の相談・協力	○											
		担任からの相談      校内支援体制の検討 教材・情報提供      進級時の相談・協力 個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成の支援      等											
3 巡回相談員や専門家チームとの連携(活用の有無)	アドバイザーチーム				○								
	巡回アドバイザー			○						○			
	作業療法士(OT)												
	スクールカウンセラー												
	アドバイザーチーム 巡回アドバイザー 作業療法士      言語聴覚士 理学療法士      スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー      医療      等												
4 学校内の児童等の実態把握と情報収集の推進	校内研修の計画・実施		○				○					○	
	行動観察	○											
	チェックリストなどを活用した実態把握												
	校内研修の計画・実施      行動観察 チェックリストなどを活用した実態把握      等												
5 その他、特別支援教育に関わる内容	啓発に関わること	○						○					
					○								
	啓発に関わること 障害者理解教育の授業に関すること 教材開発      等												

## 児童等理解に関するチェックリスト

教育上特別の支援を必要とする児童等の特性を把握するためのチェックリストです。「行動面」「対人関係面」「学習面」からなっています。対象となる児童等は、小学校1年生～中学3年生を念頭においています。なお、実施に当たっては、複数の教員で実施して結果を検討することが望ましいと思われま

平成14年に実施された文部科学省の調査項目をもとにして作成しています。



### 〈行動面〉

「不注意」または「多動性－衝動性」の少なくとも一つの群で該当する項目が6ポイント以上であれば、行動面で特別な支援が必要な児童等とします。

### 〈対人関係面〉

「対人関係やこだわり等」に該当する項目が22ポイント以上であれば、対人関係面で特別な支援が必要な児童等とします。

### 〈学習面〉

「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」の6つの領域のうち、少なくとも一つの領域で該当項目が12ポイント以上であれば、学習面で特別な支援が必要な児童等とします。

## 〈行動面〉

「ない、もしくはほとんどない：0」「ときどきある：1」「しばしばある：2」「非常にしばしばある：3」の4段階で回答

○ 「不注意」	合計				
<input type="checkbox"/> 勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 本人に向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 指示に従えず、課題や仕事を最後までやり遂げない		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 学習や活動を順序立てて行うことが難しい		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 学習や活動に必要な物をなくしてしまう		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 勉強や宿題など、集中して取り組む課題を避ける		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 気が散りやすい		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 日々の活動で忘れっぽい		0	1	2	3
○ 「多動性－衝動性」	合計				
<input type="checkbox"/> 手足をそわそわ動かしたり、座っていても、もじもじしたりする		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 授業中や座らなければならない時に席を離れてしまう		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> きちんとしていなければならない時に、余計に走り回ったり高い所に上がったりする		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 静かに遊んだり余暇活動に大人しく参加することが難しい		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> じっとしていない。まるで何かに駆り立てられるように活動する		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 度が過ぎる程しゃべる		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 質問が終わっていないのに出し抜けに答えてしまう		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 順番を待つことが難しい		0	1	2	3
<input type="checkbox"/> 他の人がしていることをさげざったり、じゃましたりする		0	1	2	3

各項目の評価点合計6ポイント以上  
評価点0点と1点は、「0点」に換算する  
評価点2点と3点は、「1点」に換算する



## <対人関係面>

「いいえ：0」「多少：1」「はい：2」の3段階で回答

○「対人関係やこだわり等」		合計		
<input type="checkbox"/>	大人びている。ませている	0	1	2
<input type="checkbox"/>	みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている	0	1	2
<input type="checkbox"/>	他の子どもは興味をもたないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」をもっている	0	1	2
<input type="checkbox"/>	特定の分野への知識を備えているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない	0	1	2
<input type="checkbox"/>	含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	言葉を組み合わせ、自分だけにしか分からないような造語を作る	0	1	2
<input type="checkbox"/>	独特な声で話すことがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	誰かに何かを伝える目的がなくとも、場面に関係なく声を出す (唇を鳴らす・咳払い・喉を鳴らす・叫ぶ)	0	1	2
<input type="checkbox"/>	とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	いろいろな事を話す、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない	0	1	2
<input type="checkbox"/>	共感性が乏しい	0	1	2
<input type="checkbox"/>	周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言う	0	1	2
<input type="checkbox"/>	独特な目つきをすることがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれども、友達関係をうまく築けない	0	1	2
<input type="checkbox"/>	友達のそばにいるが、一人で遊んでいる	0	1	2
<input type="checkbox"/>	仲の良い友人がいない	0	1	2
<input type="checkbox"/>	常識が乏しい	0	1	2
<input type="checkbox"/>	球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない	0	1	2
<input type="checkbox"/>	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	意図的でなく、顔や体を動かすことがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる	0	1	2
<input type="checkbox"/>	特定の物に執着する	0	1	2
<input type="checkbox"/>	他の子どもたちから、いじめられることがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	独特な表情をしていることがある	0	1	2
<input type="checkbox"/>	独特な姿勢をしていることがある	0	1	2

計22ポイント以上



## <学習面>

「ない：0」「まれにある：1」「ときどきある：2」「よくある：3」の4段階で回答

○「聞く」		合計			
<input type="checkbox"/>	聞き間違いがある（「知った」を「行った」と聞き違える）	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	聞きもらしがある	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	指示の理解が難しい	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	話し合いが難しい（話し合いの流れが理解できず、ついていけない）	0	1	2	3
○「話す」		合計			
<input type="checkbox"/>	適切な速さで話すことが難しい（たどたどしく話す・とても早口である）	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	ことばにつまったりする	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	内容を分かりやすく伝えることが難しい	0	1	2	3
○「読む」		合計			
<input type="checkbox"/>	初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	音読が遅い	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	勝手読みがある（「いきました」を「いました」と読む）	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	文章の要点を正しく読み取ることが難しい	0	1	2	3
○「書く」		合計			
<input type="checkbox"/>	読みにくい字を書く（字の形や大きさが整っていない・まっすぐに書けない）	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	独特の筆順で書く	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	漢字の細かい部分を書き間違える	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	句読点が抜けたり、正しく打つことができない	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない	0	1	2	3
○「計算する」		合計			
<input type="checkbox"/>	学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい （三千四十七を300047や347と書く・分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている）	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	簡単な計算が暗算でできない	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	計算をするのにとても時間がかかる	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい （四則混合の計算・2つの立式を必要とする計算）	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	学年相応の文章題を解くのが難しい	0	1	2	3
○「推論する」		合計			
<input type="checkbox"/>	学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい （長さやかさの比較「15cmは150mm」ということ）	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	学年相応の図形を描くことが難しい （丸やひし形などの図形の模写・見取り図や展開図）	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	事物の因果関係を理解することが難しい	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい	0	1	2	3
<input type="checkbox"/>	早合点や、飛躍した考えをする	0	1	2	3

各項目の評価点合計12ポイント以上



# 実態把握シート

( 年 組 名 前 : )

記入者 \_\_\_\_\_ 作成日 月 日

実 態		課題となるところ	得意なところ
学 習 面	聞く	13 / 15 ・一斉の指示だけでは行動することが難しい ・5分以上の話を聞くことが難しい	・絵で示せば理解できる ・体を動かすことが好き
	話す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     ① 児童理解等に関するチェックリストの合計点を記入                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content;">                     ② 「課題となるところ」には、「いつ（時間）」「どのような場面で（状況）」「程度は（回数）」など、多角的に捉えて記入                       「得意なところ」には、興味・関心も含め、できる方法や内容等を記入                 </div>
	読む		
	書く		
	計算		
	推論		
行 動 面	不注意	/ 9	
多動衝動	/ 9		
対人関係面	 POINT / 54	・実態把握シートに記入することで、どうすれば課題となるところ（弱み）にアプローチできるか、見方を変えて、得意なところ（強み）を探してみましょう。これを見付けることが支援につながります。	
その他			

# 個別の教育支援計画 (例)

～小学校 Ver.～

※個別の教育支援計画は市町村によって様式が異なります。それぞれの様式を使って作成しましょう。

ふりがな		男・女	生年月日	西暦 年 月 日
名前			元号	
家族構成	心理検査結果等			
	実施年月日 (実施機関)	検査の種類	結果	
家庭状況	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     知能検査・発達検査 (WISC-IV、新版K式発達検査 2001 等) 等の結果を記入                 </div>			
主たる障害の状況・診断名				
手帳の有無 あり・なし				
身体障害者手帳 ( ) 種 ( ) 級 交付日:	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     交付、更新日を記入                 </div>			
精神障害者保健福祉手帳 ( ) 級 交付日:				
更新年月日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     薬の管理方法や救急搬送対応、発作、アレルギー、除去食のこと等を記入                 </div>			
療育手帳 A1 A2 B1 B2 交付日:				
更新年月日				
生育歴上 (出生・乳幼児期) の様子や気付き	医療的な配慮 (服薬等)			
出生体重 ( ) g 分娩の様子 ( )	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     特性を理解する上で重要な情報になるため、分かる範囲で記入                 </div>			
始語 ( ) 歳 2語文 ( ) 歳				
初歩 ( ) 歳 睡眠 ( )				
いつどのようなきっかけで気付いたか ( )				
診断を受けた経緯 ( )				
関係機関				
機関名	期間	担当者	支援内容	

**POINT**



- ・医療や保健、福祉、労働等の各関係機関で目標達成に向けて「誰が」「どのような」支援を行うのかを記入することで、それぞれの役割を明確にしましょう。
- ・本人が関わっている関係機関からのアドバイス等について記入し、連携して支援を行うことに心掛けましょう。
- ・関係機関との連携においては、保護者の了解を得ることや個人情報としての取扱いに注意しましょう。

小学校		通常級・通級・支援（ ）	名前	
本人・保護者の願い		将来に向けた見通しを記入		
本人の様子	得意・好き・興味・関心		苦手・嫌い	
	健康・身体機能・身辺自立・生活・社会性・行動面・学習面など			
				弱みだけでなく、強みも記入
合理的配慮	3観点11項目	3観点11項目(P22)を左側の枠に記入し、右側に具体的な内容を記入		家庭での支援
	重点目標	支援の手だて	支援の評価等	
1年生	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>合理的配慮 決定のプロセス</b></p> <p style="text-align: center;">一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じて</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">           申し出 ↓ 調整 ↓ 決定         </div> <div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <b>本人及び保護者からの申し出（意思の表明）</b> ・教員の見立てがきっかけになる場合もある</li> <li>2 <b>本人の実態把握</b> ・興味関心、学習上又は生活上の困難、健康状態 等</li> <li>3 <b>均衡を失した又は過度の負担かどうかの判断などの検討・調整（※代替案の検討）</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">校内委員会の開催</span> ・財政状況、必要性、学校経営、教職員の対応 等</li> <li>4 <b>個別の教育支援計画に明記するとともに、個別の指導計画にも活用</b></li> <li>5 <b>合理的配慮の定期的な評価・見直し</b></li> </ol> </div> </div> </div>			
2年生				
3年生	<p><b>POINT</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画の作成に当たっては、将来の姿を想像しながら、中・長期的な見通しをもって目標を立てましょう。支援を行いながら定期的に見直しを図って、随時加筆、修正を行うことが大切です。</li> <li>・合理的配慮は、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるものです。設置者・学校と本人・保護者で発達の段階を踏まえながら考え、合意形成を図った上で決定することが大切です。</li> </ul>			
	( )担任	( )担任・通級担当	作成確認日	学年末 保護者確認印
1年生			年 月 日	
2年生			年 月 日	
3年生			年 月 日	校長印

## 個別の指導計画(例)

～小学校 Ver.～

※個別の指導計画は市町村や学校等によって様式が様々です。ここでは二つの様式例を挙げました。

	児童の様子	長期目標	短期目標(1学期)	手立て	評価
生活・身辺自立		1年先に達成できる目標を立てましょう。 個別の教育支援計画の目標も踏まえ、優先順位を付けて達成できそうなものから設定しましょう。			
学習					
社会・行動					
人間関係		全ての項目に目標を設定しなくてはいけないということはありません。 対象となる児童等の教育的ニーズがある事柄から目標を設定しましょう。			
保護者の主訴					

	児童の様子	長期目標	短期目標(1学期)	手立て	評価
自立活動	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション				
国語					
算数	学習指導要領の改訂に伴って ・特別支援学級に在籍する児童等の指導には自立活動を取り入れることが規定されました。また、通級による指導を受けている児童等には、自立活動の内容(P23)を参考とし具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとされています。				
生活	・自立活動の内容は、各教科等のようにその全てを取り扱うものではなく、個々の児童等の障害の状態等の的確な把握に基づき、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な項目を選定して取り扱うものです。				
音楽					
図工					
体育					
保護者の主訴					

評価については目標の評価と手立ての評価があります。記述式であれば、目標は児童等を主語に、手立ては教職員を主語にして書きます。評価の基準を設けて記号で記入する場合があります(例：目標達成率によって、50%未満△、50%以上○、75%～80%◎)。

# ケース会議 ワークシート

～事例検討会 Ver.～

事前確認：①会議の内容の決定 ②出席者への連絡 ③会議に必要な資料(事例に関わって)の準備

年 月 日( 曜日) 場所:( )		
出席者：管理職( ) 特支C○( ) 対象となる児童等の学級担任( ) その他の出席者( )		
案件：( )年 児童等の名前( )の支援内容について検討する		
検討会の流れ	特支C○の働きかけ・準備物	話し合いの様子・記録
①出来事の提示 事例提供者から	・一番困っていることを話してもらう。 「どんなことで困っていますか」など	
②事実情報の 収集 参加者からの質問 タイム	・出来事の背景や原因に関係すること等を質問する。 「いつからですか」「どの時間帯によくありますか」「どんな活動が好きですか」など	
③情報を整理・ 支援方法を検討 人数によっては グループで	・全体で、課題や背景を明確にする。 ・一つの付箋に一つの支援を書いてもらう。 「できるだけたくさんの方の支援方法を出し合いましょう」「いつ、誰が、何をするか具体的に書いてください」など	
④全体で支援 方法を決定する 支援を決める	・グループ毎に検討内容を発表してもらう。 ・事例提供者に尋ねる。 「明日からできそうなものはどれですか」 「やろうと思ったものはどれですか」など	
⑤まとめ	・決まったことを整理して確認する。 ・次回ケース会議、校内委員会の日程を決める。	

個別の教育支援計画  
や個別の指導計画の  
作成または支援内容  
等の見直し

## インシデントプロセス法

- ・問題解決手法として、マサチューセッツ工科大学ピコース教授によって提唱された事例研究法です。
- ・インシデント(実際に起こった出来事)をもとに、参加者が事例提供者に質問することで出来事の背景や原因となる情報を収集し、問題解決の方策を考えていく方法です。児童等の様子がよく分かるほか、支援についての様々な方策を共有できます。
- ・ワークシートは「インシデントプロセス法」の手法を参考にしながら作成しています。

**POINT**



連携

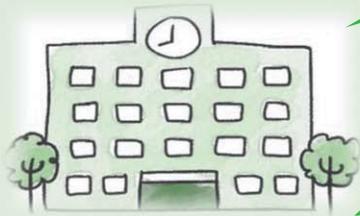
支援マップ

支援マップ

\_\_\_\_\_ 学校  
☎

\_\_\_\_\_ 教育委員会  
☎

\_\_\_\_\_ 学校  
☎



福祉 \_\_\_\_\_  
☎

\_\_\_\_\_ 学校  
☎



保健 \_\_\_\_\_  
☎

相談先 \_\_\_\_\_  
☎

医療 \_\_\_\_\_  
☎

相談先 \_\_\_\_\_  
☎

各校にとって相談窓口になるところを記入していきましょう。



## 県内相談機関

障害のある児童等に関する相談をはじめ、  
特別支援教育に関する様々な情報を提供している機関です。

- 各市町村教育委員会  
(教育センターが主として相談を受けている市もあります)
- 特別支援学校  
(特別支援学校のセンター的機能を活用できます)
  - ・盲学校 ・ろう学校 ・奈良養護学校 ・奈良東養護学校 ・奈良西養護学校
  - ・二階堂養護学校 ・高等養護学校 ・明日香養護学校 ・西和養護学校 ・大淀養護学校
- 奈良県立教育研究所特別支援教育部

障害のある児童等に関する様々な福祉的な情報提供をはじめ、  
相談したり、判定したりする機関です。

- 中央こども家庭相談センター
- 高田こども家庭相談センター
- 奈良県発達障害支援センター「でいあー」
- 児童家庭支援センター「あすか」
- 児童家庭相談支援センター「てんり」

障害のある人の就労に関して相談できる機関です。

- 公共職業安定所
  - ・ハローワーク奈良 ・ハローワーク大和高田 ・ハローワーク桜井
  - ・ハローワーク下市 ・ハローワーク大和郡山
- 奈良障害者職業センター
- 障害者就業・生活支援センター
  - ・なら障害者就業・生活支援センター「コンパス」
  - ・なら東和障害者就業・生活支援センター「たいよう」
  - ・なら西和障害者就業・生活支援センター「ライク」
  - ・なら中和障害者就業・生活支援センター「ブリッジ」
  - ・なら南和障害者就業・生活支援センター「ハローJob」

※詳しくは各ホームページをご覧ください。

## 用語説明

### 共生社会

・誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のこと。

### インクルーシブ教育システム

・人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者とない者が共に学ぶ仕組みのこと。基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指し、その場合には、それぞれの子どもが授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうかを最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要とされている。

### 基礎的環境整備

・障害のある子どもに対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」としている。

### 合理的配慮

・障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものである。学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものとされている。

#### 合理的配慮 3観点11項目

<b>観点① 教育内容・方法</b>
①-1 教育内容
①-1-1 学習上または生活上の困難を改善・克服するための配慮
①-1-2 学習内容の変更・調整
①-2 教育方法
①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
①-2-2 学習機会や体験の確保
①-2-3 心理面・健康面の配慮
<b>観点② 支援体制</b>
②-1 専門性のある指導体制の整備
②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
②-3 災害時等の支援体制の整備
<b>観点③ 施設・設備</b>
③-1 校内環境のバリアフリー化
③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

### POINT



・合理的配慮は、一人一人の発達の程度や適応の状況等を踏まえながら、柔軟に見直しができることを共通理解し、必要に応じて見直していきましょう。

※「共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進（報告）」を参考  
(平成 24 年 7 月 中央教育審議会初等中等教育分科会)

## 自立活動

- ・個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うことをねらいとしている指導領域のこと。
- ・自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加することを旨とする資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行う。特に、自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を保ち、個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を的確に把握して、適切な指導計画の下に行うよう配慮する。

## 自立活動 6区分27項目

<b>1. 健康の保持</b>
(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること (5)健康状態の維持・改善に関すること
<b>2. 心理的な安定</b>
(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
<b>3. 人間関係の形成</b>
(1)他者とのかかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること
<b>4. 環境の把握</b>
(1)保有する感覚の活用に関すること (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること
<b>5. 身体の動き</b>
(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること (3)日常生活に必要な基本動作に関すること (4)身体の移動能力に関すること (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること
<b>6. コミュニケーション</b>
(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること (3)言語の形成と活用に関すること (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

※「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」を参考

(平成 29 年 4 月 文部科学省)

- ・特別支援学級において実施する特別の教育課程については、自立活動を取り入れることとし、通級による指導における特別の教育課程については、自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め指導を行う。

※「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」を参考（平成 29 年 3 月 文部科学省）

## POINT



・自立活動は、一人一人の児童生徒の実態に対応した活動であり、よりよく生きていくことを目指した主体的な取り組みを促す教育です。

## 【引用・参考】

障害者の権利に関する条約	外務省	平成18年12月
特別支援教育の推進について（通知）	文部科学省	平成19年 4 月
共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）	文部科学省	平成24年 7 月
通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について	文部科学省	平成24年12月
障害者差別解消法への対応－文部科学省対応指針について－	文部科学省	平成27年11月
発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～	文部科学省	平成29年 3 月
特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領	文部科学省	平成29年 4 月
小学校学習指導要領	文部科学省	平成29年 3 月
小学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省	平成29年 6 月
中学校学習指導要領	文部科学省	平成29年 3 月
中学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省	平成29年 7 月
奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例	奈良県	平成28年 4 月
奈良県手話言語条例	奈良県	平成29年 3 月
奈良県の特別支援教育	奈良県教育委員会	平成24年 7 月

## 特別支援教育コーディネーターハンドブック

平成30年4月発行

編集・発行 奈良県立教育研究所  
特別支援教育部

〒636-0393 奈良県磯城郡田原本町多722  
奈良県総合リハビリテーションセンター2階  
TEL : 0744-32-8201

このハンドブックは、奈良県立教育研究所 特別支援教育部のホームページにも掲載しています。